

レポート

令和6年度 ダイバーシティ推進センター シンポジウム
を開催しました。

ダイバーシティ推進センターでは、様々なバックグラウンドを有する学生、教職員等が安心・安全に学び、研究し、働くことのできる職場・社会環境をつくるための啓発、併せて地域や関係機関等との幅広い連携を図ることを目的として、毎年シンポジウムを開催しています。

今年度は「理工系分野における女性活躍の推進に向けて」をテーマに、12月9日（月）にオンラインによるシンポジウムを開催しました。シンポジウムでは、内閣府原子力委員会委員であり、東京都市大学理工学部客員教授の岡田 往子 先生に「原子力分野に女性を増やす世界的な試み ―なぜ原子力分野に女性が必要なのか―」と題してご講演いただき、本学の教職員をはじめ、県内外の大学・関係機関から55名の参加がありました。

講演では、STEM分野における女性人材の現状や世界の動向等についてお話しがありました。

シンポジウム終了後の参加者からのアンケートでは、「なかなか聴くことのできないテーマだったので、とても参考になった。」、「有能な女性人材の登用や育成には業界の環境が大きく影響するため、人材を取りこぼさないためにも、アンコンシャス・バイアスを取り除く努力を続けることが大切だと感じた。」、「世界には女性のSTEM分野活躍を応援するコミュニティがあることも初めて知ったし、日本が遅れていることがわかった。」、「『女性枠』について『不平等』だと捉えては成り立たない、それが日本のレベルだと自覚すること、という言葉が印象的で、女性活躍推進について改めて考える良い機会となった。」などの声が寄せられ、多くの参加者から好評をいただきました。

当センターでは、今後も構成員一人ひとりの個性、特性、価値観が十分に活かされ、誰もが安心して自らの能力を発揮できる教育・研究・労働環境の実現に向け意識啓発を行い、広く一般に公開していきます。



内閣府原子力委員会委員、
東京都市大学理工学部客員教授
岡田 往子 先生



オンライン講演会 令和6年度 福井大学ダイバーシティ推進センターシンポジウム

理工系分野における女性活躍の推進に向けて

2021年経済協力開発機構原子力機関(OECD/NEA)では、世界32か国の原子力分野で働く女性を対象としたアンケート調査を行うと共に、17か国の原子力関係96機関から女性比率を定量的に調査しました。その結果、女性比率は世界平均24.9%でした(日本15.4%)。

OECD閣僚理事会はこの報告を受け、原子力分野の女性を増やし、リーダーを育成し、この分野の女性の貢献を強化するように、原子力の魅力を伝えて女性を引きつけるAttract、原子力分野で働いている女性をエンレッジし支援するRetain、そして原子力分野でのリーダーとなる女性を育成するAdvanceを柱とした勧告を、世界に向けて発表しました。

また、国際原子力機関(IAEA)では、働く若手女性向けのリーゼンマイトープログラムや女子大学生向けのマリー・キョーリ―奨学金プログラムなどを世界的に展開し、女性育成に乗り出しています。日本もOECD/NEAやIAEAと協力して、原子力分野で、より女性が活躍できるように働き出しました。

福井大学は原子力関連機関が集積する地域特性を活用し、国内外の大学や研究機関との連携により原子力分野の人材育成に取り組んでおり、原子力分野に女性を増やす世界的な試み等をご紹介します。女性活躍推進について考えます。

開催日時
令和6年 12月9日(月)
15:30~17:00

Web開催
[Webex]

対象
教職員、学生、一般の方など、どなたでもご参加いただけます。
※参加無料・事前申込制

申込方法
QRコードまたはダイバーシティ推進センターのHPにアクセスし、参加申込フォームに必要事項をご記入ください。
懇談用URLなども申込のメールアドレスにお送りします。
懇談用URL: <https://forms.office.com/r/7N0Pfcvz>

プログラム
15:20~ 入室開始
15:30~15:40 開会挨拶
15:40~16:40 講演
16:40~16:50 質疑応答
16:50~16:55 閉会挨拶
(ダイバーシティ推進センター副センター長 榎本 智恵)

講演
原子力分野に女性を増やす世界的な試み
―なぜ原子力分野に女性が必要なのか―

講演者 岡田 往子 氏
内閣府原子力委員会委員
東京都市大学理工学部客員教授

プロフィール: 1980年 日本大学新設学部福井大学理学部卒業、1981年 武蔵工業大学原子力研究所助教、1984年 千葉大学博士(工学)取得、1988年 読売新聞東京支社(読売新聞)記者、読売工業局編集、2003年 同 工学部環境エネルギー学研究所助教、2005年 同 工学部環境エネルギー学研究所准教授、2010年 読売新聞東京支社編集長、2012年 同 男女共同参画推進部長、2022年 読売新聞東京支社副編集長、2023年 内閣府原子力委員会委員(同僚委員)、2025年 東京都市大学理工学部客員教授

お問い合わせ 福井大学ダイバーシティ推進センター
TEL.0776-27-9858
diversity@ml.u-fukui.ac.jp

ホームページ 福井大学ダイバーシティ推進センター
<http://daijyo.u-fukui.ac.jp>

福井大学



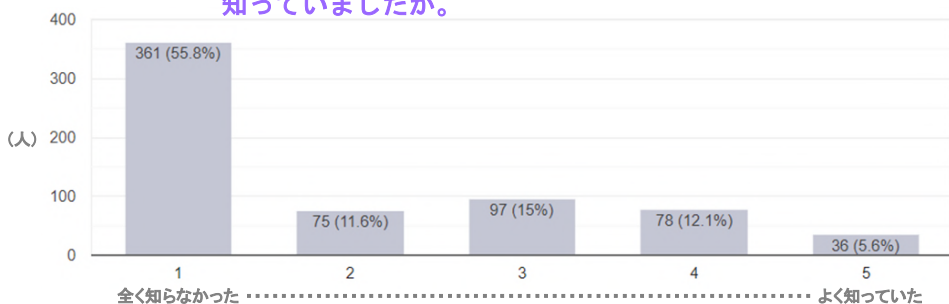
レポート

「アンコンシャス・バイアス」に関する動画研修を実施しました。

「アンコンシャス・バイアス」とは、様々な環境・集団等から影響を受けて、無意識のうちに刷り込まれた『ものの見方や捉え方の歪みや偏り』を指す言葉で、無意識の思い込みで物事を判断したり行動してしまうことを言います。

多様性を高める概念として注目されている無意識バイアスについて正しく学び、個々人が持つ無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に気付き、コミュニケーションの円滑化や業務改善に資することを目的に、厚生労働省の動画コンテンツ『アンコンシャス・バイアス セミナー ～心に潜む“無意識の思い込み”に気付く～』を視聴する研修を実施し、事後アンケートを行いました。（※アンケート結果は以下参照）

■アンケート1：本研修以前に「アンコンシャス・バイアス」という言葉を知っていましたか。



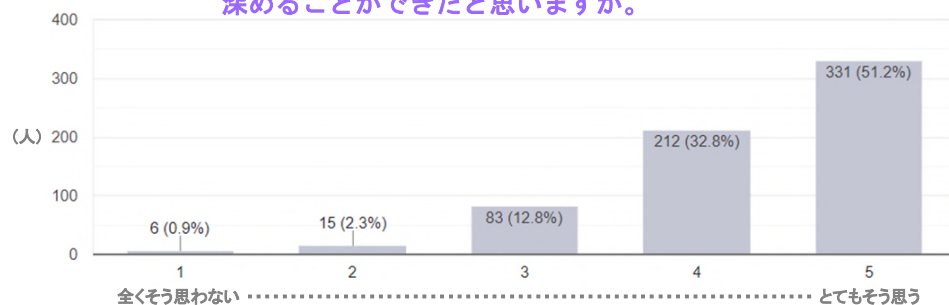
■アンケート3：自由記述（抜粋）

性別に関係なく行動するという意識を常に心がける必要があると感じた。

自分自身の可能性を狭めるという点は、特にハットなった。

自分の無意識のバイアスや偏見に気づききっかけとなった。より公平で包括的な環境が促進されることを期待したい。

■アンケート2：本研修を通して、アンコンシャス・バイアスに対する理解を深めることができましたか。



ニュース

育児・介護コンシェルジュにご相談ください

教職員のライフイベントを支えるため、本学には育児や介護に関する休業や休暇等の様々な制度があります。

ダイバーシティ推進センター内に、仕事と出産・育児・介護の両立を支援するための窓口『育児・介護コンシェルジュ』を設けています。

学内の手続きに関する対応部局の紹介や育児休業・介護休業等の制度、研究者支援制度についてご案内します。

< コンシェルジュ配置場所 >

ダイバーシティ推進センター
文京キャンパス 総合研究棟 | 13階

受付時間：9:00～17:00（土日祝日を除く）

連絡先：電話 0776-27-9858（直通）
内線（文京）2206

E-mail diversity@ml.u-fukui.ac.jp

対象：福井大学全職員
（文京・松岡・敦賀・二の宮・ハツ島）



発行：福井大学ダイバーシティ推進センター



連絡先：内線（文京）2206

E-mail: diversity@ml.u-fukui.ac.jp

